

# 盛岡バッハ カンタータ フェライン 演奏会

バッハのタベ

'96年 3月15日(金)午後7時  
岩手県民会館中ホール



JOHANN  
SEBASTIAN  
BACH

## ごあいさつ

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

代表 下田 潤

本日は年度末のお忙しい中、ようこそおいで下さいました。皆様の温かいご支援のもと、この演奏会を開催できますことをフェライン一同心より感謝申し上げます。

私たちの1995年度は、ツィルヒ指揮・ニュールンベルク交響楽団との共演によるドイツ国内演奏旅行に始まり、東日本合唱祭参加、チャペルコンサート、岩城宏之指揮によるオーケストラ・アンサンブル金沢との共演によりハイドン作曲の「天地創造演奏会」、クリスマス・チャリティコンサートと、充実した一年でした。

これらの演奏活動を実現するに当たりましては、岩手県文化振興事業団、盛岡市、ドイツのシュヴァーベン州知事、ギュンツブルク市長、グントレミンゲン市長、岩手日報社をはじめ多くの方々から多大のご理解とご支援をいただきました。この機会にあらためて厚く御礼申し上げます。

さて、バッハの教会カンタータは200曲におよび、どの曲も殊玉のような作品であり、まさに、宝石箱を開くときめきを感じさせてくれますが、今宵は、ドイツの演奏会の時のように、佐々木正利先生のソロのほか、当フェラインのメンバーによるソロを交えたカンタータ131番、21番及びモテット4番を演奏致します。

オーケストラは、1978年以来共演させていただいている東京バッハ・カンタータ・アンサンブルをお招きいたしました。会場の皆様方と感動をともにすることができましたなら、このうえない幸せと存じます。

最後に、ご後援をいただきました皆様方、東京バッハ・カンタータ・アンサンブルのコンサートマスター・蒲田克郷先生はじめ、アンサンブルの方々、指揮者・佐々木正利先生に感謝して、ご挨拶いたします。

---

主 催：盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

後 援：岩手県教育委員会 盛岡市教育委員会 岩手日報社 NHK盛岡放送局

IBC岩手放送 テレビ岩手 エフエム岩手 岩手日独協会

# プログラム

## バッハの夕べ Bach Abend

カンタータ第131番 “主よ、われ深き淵より汝を呼ばわる” BWV 131  
kantate Nr.131 “Aus der Tiefen rufe ich,Herr,zu dir”

休 憩

モテット第4番 “恐るるなかれ、われ汝とあり” BWV 228  
Motette Nr.4 “Fürchte dich nicht,ich bin bei dir”

休 憩

カンタータ第21番 “わがうちに憂いは満ちぬ” BWV 21  
kantate Nr.21 “Ich hatte viel Bekümmernis”

---

指 揮：佐々木正利

オーケストラ：東京バッハ・カンタータ・アンサンブル

蒲生 克郷（ヴァイオリン）花崎 淳生（ヴァイオリン、ヴィオラ）

深沢 美奈（ヴィオラ） 花崎 薫（チェロ）

蓮池 仁（コントラバス）長岡 大輔（オーボエ）

チェンバロ：劔持 清之

独 唱：ソプラノ／斉藤 純子 佐藤 澄江 佐藤 千砂 丹野亜希子 福田 温子

アルト／伊藤 由美 小川 暁美

テノール／佐々木正利 佐々木幹雄 田代 亮 中野 寛司 吉村 哲

バ ス／阿部 学 小原 一穂 佐藤 和久 芳賀 郁夫

合 唱：盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

## プログラム・ノート

ヨハン・セバスティアン・バッハというと、オルガン、クラヴィーア、ヴァイオリンやチェロ、フルートなどのための器楽曲、あるいはコンチェルトや組曲といった器楽のための音楽をイメージする方が多い。たしかにそれらの作品は相当な数にのぼり、また、「殊玉の名曲」ばかりである。一方声楽曲は、ドイツ語への壁も感じられ、聴かれたり演奏されたりする機会は少ない。

しかし、バッハが生きていた時代は「公開演奏会」（今日ホールで行われる一般的なコンサート）が始まったばかりであり、多くの市民は主に教会で音楽に触れることになった。事実、「作曲家バッハ」も、その生計を立てる主な仕事は教会でのオルガン演奏やカンタータの作曲であった。従って、いわゆる器楽曲を作曲することよりも教会音楽（オルガン曲やカンタータなど）を作曲することのほうが、バッハにとってより重要な「仕事」であったはずである。つまり、バッハの教会音楽は数々の彼の「器楽曲」の作曲の下地としても作用していると考えられる。

そこで、バッハ自身や彼の音楽全般にとって重要な教会音楽、特にカンタータなどの「声楽曲」はどのように作曲されているのだから、特に、私たち日本人にはなじみの薄い「ドイツ語」と音楽の関係はどうなっているかについて、以下、各作品について考えてみたい。

### 1. カンタータ131番 (BWV131)

このカンタータの成立過程は定かでない。1707年、バッハはオルガニストとして3年間つとめたアルンシュタットをあとに新任地ミュールハウゼンに赴いた。この町はこの年の5月に大火にあっており、7月頃に大火後の悔改めの礼拝が行われた、おそらくバッハはこの礼拝のためにこのカンタータ131番「深き淵より、主よ、われ汝に呼ばれる」を作曲したと考えられている（だとすれば、現存する彼のカンタータの中では（BWV 4 に続く 2 つ目の作品ということになる。

歌詞は、合唱も独唱も聖書の詩篇130番の全編を用い、途中に懺悔をテーマとするコラール（ドイツのルター派教会での会衆の歌。賛美歌のようなもの。）が歌われる。後年のカンタータ（例えば本日演奏する（BWV21））にみるような自由詩は用いられていない。

第1曲は“Aus der Tiefe ruf ich, Herr, zu dir.”との「呼びかけ」の前半部分と“Herr, höre meine stimme Laß deine Ohren merken auf die stimme meines Flehens.”と「願い」の後半部分に音楽的にも分けられる。「呼びかけ」部分では3/4拍子のゆっくりとした足どりで絶望の深き淵から「主よ」と呼びかける。「願い」の部分ではわが声に耳を傾けたまえ、わが嘆願の声に。」と声部を変え、音域を変えて、次から次へと願う。第2曲は第1曲と切れ目がなく、バス・ソロとソプラノのコラールで心情が歌われる。バス・ソロでは“Herr, という呼びかけおよび“Sünde (罪)” “bestehen (立っている)”という言葉が繰り返されたり高められたり引き延ばされたりして強調される。それを、重なるコラールで会衆の言葉、心情として補足する。後半では、“Vergebung (許し)”が高音で強調され“fürchte (恐れる)”は長い「おののきの音形」のメリスマが用いられ強調されている。

第3曲は後年の器楽曲で用いられている様式、「前奏曲とフーガ」の様相を呈している。5小節にわたる宣言「私は主を待ちこがれます」と、「わが魂は主を待ちこがれ、私は期待している」というフーガ部に分かれている。宣言の部分では“harre (待ちこがれる)”を駆け登る昇るようなパート・ソロで、フーガ部では同じ言葉を6拍に及ぶ半音階的にシンコペーションで際立たせている。オーボエとヴァイオリンで奏されるオブリガード旋律は、まるで“ich hoffe (私は期待している)”と何度も何度も繰り返すようである。それらの流れはしだいに一つの流れとなり、目的地をめざす、それは“auf sein Wort.”すなわち「あなたの言葉に！」である。

第4曲はコンテイヌオ（通奏低音）とテノール・ソロ、それにコラールが重なる。第3曲の待ちこがれているという心情をさらに強める歌詞内容である。重なっているコラールは、主や主の言葉を待ち望む会衆の祈りである。

第5曲はイスラエルへの呼びかけの前奏で始まる数々の過ちで辛酸をなめたイスラエルと大火によって混乱したミュールハウゼンの町を重ね合わせた祈りである。「主は（必ずや）イスラエルの町を全ての罪から救って下さる。」という力強いハーモニーで締めくくる。

以上の全ての曲を結びつけているのは《わが罪とその悔い改め、そして主を待ち望む希望》である。大火に遭ったミュールハウゼンの人々の心に、きつと、力強い未来と希望を思い起こさせたであろう。

## プログラム・ノート

### 2. モテット 4番 (BWV228)

このモテットは、1726年/パツハ44歳のとき、ある葬式の際の追悼用として演奏されたと考えられている。

「恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。

驚いてはならない。わたしはあなたの神である。」という堂々と、かつ、愛情に満ちた主の言葉の二重合唱で始まる。それぞれの文節が幾度となく繰り返され、1コーラスと2コーラスの間を渡り歩きながら一つの頂点をつくる。

その頂上から、「Ich stärke (強くする)とパート・ソロ及び8声部の合唱で4回、力強く響きわたる。

続くフレーズでは「あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたを支える。」という歌詞が1コーラスと2コーラスの長いメロディックなかけ合いで歌われる。ここでは「erhalte(支える)」という言葉が、引き延ばされたりメリスマの動きを与えられたりして強調される。死して昇天する魂は決して孤独ではなく神によって支えられているのだ、という死生観が感じられる。途中に聴かれる「Ich stärke dich, ich helfe dir auch,」は、死んだ魂のみでなく残された人々をも勇気づける。

154小節中ちょうど半分の77小節から、突然音楽の表情が変わる。合唱は3声のフーガになり、ソプラノがコーラルを歌う。半音階的下降音形のフーガは何度も繰り返され、説得的である。

このコーラルに至って初めて、主に呼びかける人間の声が聞こえてくる。信仰の力強さと主によせる愛情の豊かさを表現する。

パツハの多くのモテットは二重合唱を主体としている。そのどの曲も二重合唱の構成を生かし、主の力強さ、恵みの深さ等、言葉に応じてその感情(アフェクト)が実に効果的に表出されるように作曲されている。

### 3. カンタータ21番 (BWV21)

このカンタータが作曲されたのは、1713年から1714頃、30歳に未だ達しない若きパツハがヴァイマルの宮廷楽師長に任命され、教会音楽曲を定期的にかくように命じられたころである。豊かな楽想とドラマチックな展開をもつ、若きパツハの代表作といえる。

冒頭から、内省的なメロディーをもつオーボエとヴァイオリンのデュエットによるシンフォニアで始まる。続く合唱は、いきなり、「私は、私は、私は、」と3度繰り返し、「かつて憂いに心を満たされたのは、紛れもなくこの私だ。」と自分の心を振り返えさせる。そして何度も何度も繰り返しながら聴く人の心の中に入り込んでいく。すると突然に「aber」=「しかし」と告げられ、「あなたの慰めが私の魂を活気づけ、喜ばせる」と実に生き生きとした音楽で嬉しさが溢れてくる。長調に転調し、どのパート(器楽も含め)にもメリスマが多用される。

第3曲のソプラノ・アリアは、留息にも似たオーボエの前奏に導かれる。悲嘆にくれ苦悩を感じ続け

る自分の心の内を告白する。

第4曲、第5曲では、テノール・ソロにより、自分に背を向け声を聞き入れて下さらない主に、絶望とも思える感情を示している。「絶えず流れる苦き川の音」を表す弦楽伴奏の細かいリズムの音形が特徴的である。

第6曲では一変して、弱きに屈しようとするそれまでの自分を助けようとするもう一つの自分の声がある。それは四重奏の後、合唱で堂々と繰り返される。「主に感謝するが故に主を待ち望む」というフレーズは、確かな足どりを示す。続くフーガの部分はしだいに大きな流れを形成して、第1部を締めくくる。

第2部は全体のトーンも明るくなる。それは第7曲、第8曲に代表されるように、イエスを待ち望む自分の魂に主イエス・キリストが 答えて下さるからである。「魂」と「イエス」の世界には何者も入り込まず、ただコンティヌオだけが支えている。

第9曲の合唱では、悩み絶望した自分を救って下さった神の平安に帰れと3声のソロが自分の魂の向かうべき方向を示す。その合間に、勇気づけるコーラルが力強く響く。

第10曲では、救われ喜びに満たされた魂が、その喜びを爆発させる。悲しみや憂い、痛みを克服した魂が、3拍子の明るい調にのって踊る。

終曲の合唱は、十字架にかけられたからこそ真の神として認められるイエスの全てを賛美する合唱である。ホモフォニーの前奏部、ソロから合唱へと力を増し加えるフーガ部と2部分からなっている。器楽伴奏も、合唱も、全力で全能の神を賛美する。

このカンタータは、パツハと同世代の音楽評論家J・マッテソンの《音楽批評》(1725刊)によって、「言葉のむやみな反復」「不必要な言葉の引き伸ばし」と批判されたカンタータである。しかし、これまで見てきたように、その言葉の「反復」や「引き伸ばし」があるからこそ、人間の苦しみや喜びといった感情あるいは神を心から慕う心情が表現できるのである。

なお、このカンタータは聖書の書簡省句「ペテロの手紙第1第5章6-11節」の解釈(音訳)を含んでいる。苦しみの内にある信徒を勇気づけ、神の強いみ手のもとで自分を低くするように、と告げるこの節を、後日、是非、お読みいただきたい。

以上、パツハの声楽作品は、歌詞やストーリー性に依拠して、その歌詞を生かしその感情(アフェクト)を強めるように音楽付けがなされている。「宗教音楽」というと、まず「神の御言葉あり」というイメージがありがちだが、パツハはその神を認識する人間に目を向け、その人間の心を神に向かって開かせるように、歌詞と取り組み音楽付けをしている。その音楽の深さを聴きとっていただければさいわいである。

盛岡パツハ・カンタータ・フェライン  
サブ・コンサートマスター 佐々木幹雄

## プロフィール

佐々木正利 指揮・テノール



東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士及び博士後期課程修了。須賀靖元(声楽)、小林道夫(演奏法)、服部幸三(音楽学)、森明彦(発声法)、松本民之助(作曲)、岳藤豪希(宗教音楽)の各氏に師事。1973年にバッハ・クリスマスオラトリオの福音史家で楽壇デビューして以来、バッハをはじめとする宗教音楽のスペシャリストとして揺るぎない地位を得ている。1979年シュトゥットガルトに渡り、L・フィッシャー教授に師事。1980年第6回ライブツィヒ国際バッハ・コンクール声楽部門第5位入賞。同年より1982年までデットモルト北西ドイツ音楽大学に学び、H・フレッチマール教授に師事。在独中は欧州各国の演奏会に招かれ、特に1980年、ウィーン楽友協会ホールでのマタイ受難曲では『若き日のP・シュライヤー』と新聞各紙で絶賛される。帰国後もライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ベルリン交響楽団、ブタペスト・フィルハーモニー管弦楽団等、世界各国の著名オーケストラ、N響、読響、日フィル、新日フィル等、日本の殆どのオーケストラのソリストとして起用され、K・マズア、H・シュタイン、H・プロムシュテット、岩城宏之、小沢征爾、世界を代表する数々の指揮者と共演。また世界的バッハ指揮者であるH・ヴァンシャーマン、H・リリング、H・J・ロッチュ、M・コルボ、R・ヤコブス等率いる、ドイツ・バッハ・ソリストエン、シュトゥットガルト・バッハ合唱団、ゲヒンゲン聖歌隊、聖トマス教会聖歌隊、RIAS室内合唱団等の演奏会に度々出演し信頼を勝ち得ている。1985年ザルツブルク音楽祭に招かれ、R・パーター指揮のモーツァルテウム管弦楽団、ベルリン聖ヘドヴィヒ聖歌隊とバッハ・マニフィカト等を共演、絶賛を博した。在独中はヴェストファーレン州立歌劇場等で「グリゼルダ」のコツラード、「フィデリオ」のヤッキーン、「コシ・ファン・トゥッテ」のフェランド役で出演、現在までにリサイタル18回を数え、レコード・CDも10数本、またテレビ、FM等にも度々出演している。

1970年東京芸大バッハ・カンタータ・クラブの創設に携わり、多くの後進を育てるとともに指揮者としての活動を開始。以後、20数年余りにわたって主に宗教曲の演奏に専念をみせ、そのいずれもが名演の誉れ高い。特に盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団を率いての3度にわたるドイツ公演では「シュッツ、バッハの世界的担い手」とした最大級の賛辞が新聞各紙に掲載され、1993年のヴァンシャーマンとのマタイでは「マタイ演奏史上、最も特筆されるべき演奏の一つ」、また1995年のJ・ツィルヒとの天地創造では「音楽と言葉の見事なまでの融合」と、その音楽作りが絶賛された。1987年、88年には、リリング音楽監督のバッハ・アカデミーにてTen.マスタークラスの講師を務め、またコダーイ・サマースクール、古楽サマースクール、全日本合唱連盟主催のコーラス・ワークショップ等でも指導講師に招かれるなど、その指導力については我が国にとどまらず世界的に定評がある。1994年、長年にわたる顕著な演奏・教育の業績に対し、第47回岩手日報文化賞(学芸部門)が贈られた。

現在、岩手大学教育学部音楽科教授、二期会会員。グループ・ベツヒライン会員。日本声楽発声学会理事、日本発声指導者協会常任理事。仙台バッハ・アカデミー理事。盛岡/バッハカンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団、岡山/バッハ・カンタータ協会、岩手大学合唱団、東北大学混声合唱団常任指揮者。水戸/バッハ・コレギウム音楽顧問。

# プロフィール

## 東京バッハ・カンタータ・アンサンブル

「東京バッハ・カンタータ・アンサンブル」は、1970年に東京芸術大学の学内サークルとして創立されたバッハ・カンタータ・クラブのOB等を中心に、バッハの宗教曲等の演奏会のために編成された室内オーケストラである。レパートリーはバッハに留まらず、古典から現代まであらゆるジャンルの室内楽曲に及び、その演奏はいずれも世界的評価を得ている。メンバーは固定されておらず、母校芸大の教授陣はじめ、各大学の教官、主要オケの首席奏者、世界的独奏家、主要カルテットのメンバー等、都合300人余りに及ぶOB会員の中からその都度編成されている。

母体となっているバッハ・カンタータ・クラブは、声楽、器楽、作曲、楽理科の学生からなる芸大唯一の総合的音楽サークルであり、顧問に服部幸三、角蔵一朗両教授、指揮・指導に創設時より一貫して小林道夫をお招きし、現在に至るまで毎年の定期公演を中心に活動を続けている。

### 蒲生克郷 コンサートマスター・ヴァイオリン (Vn)



1976年東京芸術大学卒業。NHK・FM「夕べのリサイタル・新人演奏会」に出演。1976年～78年渡独。ヒルデスハイム市立歌劇場管弦楽団奏者、ヒルデスハイム室内管弦楽団コンサートマスターを務める傍ら、ヴュルツブルク音楽大学にて研鑽を積む。帰国後は室内奏者として慈弦楽四重奏団、東京バロックアンサンブル、東京バッハアカデミー、久合田緑弦楽四重奏団などで活躍する一方、東京芸大バッハ・カンタータクラブ、盛岡バッハカンタータフェライン、盛岡バッハアンサンブルの指揮者を努めた。1987年～88年神戸女学院大学講師。現在、アンサンブルof東京、エルデーディ弦楽四重奏団メンバー。水戸バッハコレギウム常任指揮者。東京芸術大学管弦楽研究部講師、及び同部首席奏者。多久興、海野義雄、ボリス・ゴールドシュタインの各氏に師事。

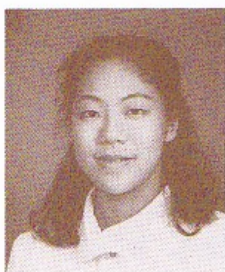
### 花崎淳生 ヴァイオリン・ヴィオラ (2nd. Vn, 1st. Vla)



東京芸術大学を経て同大学大学院修士課程修了。在学中、芸大バッハ・カンタータクラブに所属。1984年、中国政府の招待により訪中。北京、西安、上海の各地で演奏。1985年、東京都ニューヨーク市姉妹都市提携25周年記念カーネギーホール公演に出演。1986年～87年にかけて、旧西ドイツ、カールスルーエに留学。

井上武雄、日高毅、J.W.ヤーンの各氏に師事。現在「エルデーディ弦楽四重奏団」「古典四重奏団」「ノリステン '85」メンバー。

### 深沢美奈 ヴィオラ (2nd. Vla)



1990年東京芸術大学音楽部入学。1993年第3回日本室内楽コンクール入選。

1995年東京文化会館新進音楽家デビューコンサートに出演。

これまで中島敬子、浦川宣也、河合訓子、菅沼準二の各氏に師事。

現在、同大学大学院修士課程に在学中。

## プロフィール

### 花崎 薫 チェロ (Vc)



1979年、東京芸術大学在学中、ドイツ学術交流会(DAAD)給費留学生として西ベルリン芸術大学に留学。1981年、西ベルリン芸術大学卒業後、東京芸術大学に復学。第50回日本音楽コンクールチェロ部門第3位入賞。1983年、東京芸術大学卒業。1985年、東京都ニューヨーク市姉妹都市提携25周年記念カーネギー・ホール公演に出演。1986年、文化庁在外研修員として西ドイツカールスルーエ音楽大学に留学。1987年、カザルス・ホールにてリサイタルを開催。

堀江泰、三木敬之、E・フィンケ、M・オースタータークの各氏に師事。

現在、新日本フィルハーモニー交響楽団首席チェリスト、東京芸術大学講師。「エルデーディ弦楽四重奏団」メンバー。

### 長岡大輔 オーボエ (Ob)



東京芸術大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学マイスタークラスでギンター・パッシン氏に師事。現在、プレーメン国立フィルハーモニーのオーボエ奏者として、また、カンマーシンホニー・プレーメンのソリストとして北ドイツを中心に、ヨーロッパ各地で演奏活動を行っている。

### 蓮池 仁 コントラバス (Kb)



東京芸術大学卒業。永島義男氏に師事。在学中、芸大バツハ・カンタータクラブにて小林道夫氏の指導のもと、その薫陶を受ける。

現在、東京シティ・フィルハーモニー管弦楽団コントラバス奏者

### 劔持清之 チェンバロ (Cemb)



国立音楽大学卒業。“コンコーネ50番”ピアノ伴奏テープ録音、ビデオ・ディスク“チェンバロのすべて”録音。国立音楽大学助教授佐藤峰子氏の演奏会及び同氏主催声楽研究会専属ピアニストを努める一方、パロック・アンサンブル“Musika Anrede”チェンバロ奏者として活動。1991年仙台において海老沢敏氏によるモーツァルト没後200年記念講演でピアノ協奏曲を演奏し好評を得る。93年佐々木正利氏リサイタルにおいてオルガン、ピアノを努める。94年仙台NTT主催チェンバロ・リサイタルを行う。95年盛岡バツハ・カンタータ・フェラインドイツ演奏旅行に帯同し、ニュルンベルク交響楽団とのハイドン“天地創造”のチェンバロ、カメラータ・ヴォカレ・ギンツブルクとの合同演奏会でのオルガンを努める。9月モーツァルトの室内楽リサイタル開催。11月岩城宏之指揮“天地創造”のチェンバロを努める。ピアノを中村ウメ、佐々木靖子、小島満里、故口マン・オルトナー、チェンバロ、通奏低音を西川清子各氏に師事。現在盛岡大学短期大学部助教授、盛岡楽友協会、グルッペ・ベツヒライン各会員。盛岡バツハ・カンタータ・フェラインオルガニスト



# プロフィール

## 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

1977年、J・Sバッハのカンタータを研究・演奏する目的で発足。当時すでに、「東京芸大バッハ・カンタータクラブ」の創立者の1人として活躍し、バッハの声楽曲に深い造詣を示し、東京芸術大学大学院生だった佐々木正利氏を指揮者に迎え、以来、一貫して、バッハの作品を中心としたドイツバロック合唱曲を「言葉が生き、音楽が生きる演奏」を音楽信条として、音楽活動を続けている。



1995年11月22日 岩手県民会館大ホール「天地創造」演奏会 岩城宏之指揮、オーケストラ・アンサンブル金沢と共演。

### 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン：ソリスト

#### カンタータ第131番

- Nr. 2     バ     ス     佐藤 和久    日本大学文理学部卒業、岩手県立花巻南高等学校教諭  
Nr. 4     テノール   佐々木正利   指揮者に同じ

#### カンタータ第21番

- Nr. 3     ソプラノ   佐藤 千砂    岩手大学教育学部音楽科卒業、盛岡市立上田小学校教諭  
Nr. 4、5   テノール   佐々木幹雄   岩手大学教育学部教職科卒業、紫波町立上平沢小学校教諭  
Nr. 6     ソプラノ   斉藤 純子    宮城学院女子大学卒業、森田小児科医院勤務  
          アルト    伊藤 由美    岩手大学教育学部音楽科卒業、大野村立大野第一中学校教諭  
          テノール   吉村 哲     盛岡第三高等学校卒業、岩手大学教育学部音楽科2年  
          バ     ス     佐藤 和久    カンタータ第131番Nr. 2に同じ  
Nr. 7、8   ソプラノ   佐藤 澄江    岩手大学教育学部音楽科卒業  
          バ     ス     小原 一穂    岩手大学教育学部音楽科卒業、東京学芸大学大学院修士課程卒業、岩手大学教育学部附属小学校教諭  
Nr. 9     ソプラノ   福田 温子    岩手大学教育学部音楽科卒業、花巻市立南城中学校教諭  
          アルト    小川 暁美    岩手大学教育学部音楽科卒業、遠野市立遠野北小学校教諭  
          バ     ス     阿部 学     一関第一高等学校卒業、岩手大学教育学部英語科2年  
Nr. 10    テノール   中野 寛司    玉川大学文学部芸術専攻科卒業 盛岡市立黒石野中学校教諭  
Nr. 11    ソプラノ   丹野亜希子   盛岡第一高等学校卒業、岩手大学教育学部音楽科3年  
          アルト    小川 暁美    Nr. 9に同じ  
          テノール   田代 亮     東北大学法学部卒業、岩手県立杜陵学園教諭  
          バ     ス     芳賀 郁夫    北海道教育大学音楽科卒業、岩手大学教育学部附属中学校教諭

## 合唱団・出演者

### ソプラノ

阿部 靖子	伊藤 美奈子	大石 敦子	太田 美穂	小田 妃呂子
小野寺 貴子	門脇 たたえ	菅野 綾子	菊池 節子	久保木 万喜子
熊谷 充代	後藤 弘子	斉藤 純子	佐藤 澄江	佐藤 智恵子
佐藤 千砂	澤田 東子	清水 真理子	菅村 雅子	高橋 菜穂子
高橋 玲子	丹野 亜希子	丹野 貞子	野口 淑	馬場 葉子
福士 静江	福田 温子	藤崎 美苗	藤沢 ヒロ子	柳田 松子
矢幅 嘉子	吉田 澄江			

### アルト

伊藤 由美	小川 暁美	小野寺 洋子	加藤 緒理恵	金子 千鶴
鎌田 紀美子	桐原 絹子	菊池 綾	佐々木 文子	佐々木 美智子
佐藤 恵	須川 加奈子	鈴木 織理恵	鈴木 奈緒子	鈴木 英美
鈴木 祐子	武田 匡子	丹野 まり	千田 加代子	照井 志津
中野 和子	中野 晶子	早川 芙美子	福田 祐子	茂木 容子
吉田 まき子				

### テノール

織田 靖夫	金田 誠	斉藤 健	佐々木 幹雄	菅原 伸作
田代 亮	寺澤 敬行	中野 寛司	吉村 哲	

### バス

東 勝	阿部 学	大石 恭平	小原 一穂	菊池 則行
佐藤 和久	田沢 隆	下田 潤	芳賀 郁夫	村上 敦司
横山 泉	戸来 百樹	渡辺 信之		

## 盛岡バッハ・カンタータ・フェラインの歴史

- |                 |                                                |          |
|-----------------|------------------------------------------------|----------|
| 1977年 2月27日     | 「カンタータを歌う会」として発足                               |          |
| 6月28日           | 「盛岡バッハ・カンタータ・フェライン」に改称                         |          |
| 1978年 2月26日     | 「バッハコンツェルト」カンタータ第45番、芸大と共演                     | 指揮 小林 道夫 |
| 1979年 10月 6日    | 「BACH ABEND」カンタータ第158、131番                     | 指揮 小林 道夫 |
| 1980年 2月27日     | 「バッハの夕べ」カンタータ第80番、芸大と共演                        | 指揮 小林 道夫 |
| 1980年 12月22日    | チャリティーコンサート初年：市内パロック音楽愛好家グループ                  |          |
| 1981年 7月 4日     | 「BACH ABEND」カンタータ第196、182番                     | 指揮 小林 道夫 |
| 1982年 11月22日    | 「バッハの夕べ」カンタータ第158・4番                           | 指揮 佐々木正利 |
| 1985年 3月16日・17日 | J・Sバッハ生誕300年記念演奏会「ヨハネ受難曲」<br>(仙台宗教音楽合唱団と合同演奏)  | 指揮 佐々木正利 |
| 1985年 11月 3日    | 仙台北教会宗教音楽の夕べ「メサイア」                             | 指揮 佐々木正利 |
| 1985年 11月29日    | G・Fヘンデル生誕300年記念演奏会「メサイア」                       | 指揮 佐々木正利 |
| 1986年 4月11日     | 「宗教音楽の夕べ」シユツツ「ドイツ・レクイエム」<br>バッハ「モテット1番」他       | 指揮 佐々木正利 |
| 1986年 4月～5月     | 第1回ドイツ演奏旅行「メサイヤ」「ドイツ・レクイエム」                    | 指揮 佐々木正利 |
| 1986年 7月11日     | 「東京プリステン演奏会」共演、ベルゴレージ「スターバト・マーテル」              | 指揮 赤松 安  |
| 1987年 3月28日     | 創立10周年記念演奏会「カンタータの夕べ」<br>カンタータ第34番、第70番、第102番他 | 指揮 佐々木正利 |

- 1987年11月27日 ムシカ・デラルテ・トウキョウ演奏会「バロック音楽の夕べ」(主催)
- 1988年3月12・13日 仙台宗教音楽合唱団(創立20周年)との合同演奏会「ミサ曲口短調」 指揮 佐々木正利
- 1988年9月17日 「今仲幸雄バリトンリサイタル」(主催)
- 1988年11月17日 「ミヒヤエル・ショッパーパーバリトンリサイタル」(主催)
- 1989年4月24日 「二重合唱の夕べ」バッハ「モテット第2番、第5番」他 指揮 佐々木正利
- 1990年3月10・11日「盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団合同演奏会」バッハ「クリスマス・オラトリオ、第4部～第6部」  
「ミサ曲へ長調」 指揮 佐々木正利
- 1990年10月1日 「アグネス・ギベール 佐々木正利 ジョイントリサイタル」(主催)
- 1990年12月～1991年1月 第2回ドイツ演奏旅行「クリスマス・オラトリオ」ほか 指揮 佐々木正利
- 1991年3月10日 ドイツ演奏旅行帰国演奏会「クリスマス・オラトリオ」ほか 指揮 佐々木正利
- 1991年10月14・18日 「カンタータ第140番、コーヒーカンタータ」  
ドイツ・バッハ・ゾリステンと共演 指揮 ヘルムート・ヴァインシャーマン
- 1992年3月21日 「バッハとメンデルスゾーンのカンタータの夕べ」  
カンタータ第93番他 指揮 佐々木正利
- 1993年10月20・24・29 「マタイ受難曲」ドイツ・バッハ・ゾリステンと共演(盛岡・岡山・東京)  
指揮 ヘルムート・ヴァインシャーマン



コンサートサロン 第118回  
'93.10.20 岩手県民会館大ホール ドイツ・バッハゾリステン/盛岡バッハ・カンタータフェライン演奏会

- 1994年7月25日 「カンタータ第147番」仙台バッハアカデミーにおいて仙台  
フィル・バッハアンサンブルと共演 指揮 佐々木正利
- 1994年12月18日 弘前：ヘンデル「メサイア」弘前市民合唱団と共演 指揮 佐々木正利
- 1995年4月末～5月 第3回ドイツ演奏旅行「天地創造」ほか 指揮 ヨセフ・ツィルヒ、佐々木正利
- 1995年8月26日 一関・東日本合唱祭参加「モテット第6番」ほか 指揮 佐々木正利
- 1995年9月26日 剣持清之・トリオフィリオレ「モーツァルト室内楽の夕べ」(主催)
- 1995年10月8日 青山町教会チャペルコンサート「天地創造」抜粋ほか 指揮 小原 一穂
- 1995年11月22・23日 「天地創造」オーケストラ・アンサンブル金沢と共演(盛岡、仙台) 指揮 岩城 宏之

#### 団員募集

合唱団では団員を募集しています。

年齢、経験を問いません。合唱の好きな方ならどなたでも大歓迎。

練習日：毎週火曜日 午後6時30分～9時

場 所：盛岡市志家町カトリック志家教会

お問い合わせ：0196-23-7958 下田 潤

